

総合心療センター デイケアメンタル

室長 川渕 忠義

はじめに

令和 6 年（2024 年）は、利用者数の回復に向け、チームの基盤づくりに注力した一年であった。3 月にスタッフ 1 名が退職、4 月に新たにスタッフを迎えての実践は利用者数の増加といった目に見える結果には結びついていないのが現状である。しかし、新生チームでの実践は何度となくおこなわれたスタッフカンファレンスにより醸成されつつあり、ケースをとおしてみえてきた課題やニーズを把握すること、当院の精神科デイケアに求められていることと実現できることなどを吟味する貴重な機会となった。

運営状況

デイケアメンタルの運営体制は、少数での運営という特性上、上記した看護師の異動は大きなストレスであり不安定なチーム運営であった。ベテラン看護師の退職は利用者増加に向け取り組むうえでは大きな痛手となったが、異動してきた看護師については精神科病棟のキャリアは十分であり、行き詰ったチームに新たな視点で取り組む手がかりとなっている。スタッフ構成は作業療法士をリーダーに公認心理師 1 名、看護師 1 名の計 3 名のベテランスタッフで構成されている。昨年と同様、週 1.5 日作業療法室の作業療法士によるサポート体制は継続、新たな取り組みをおこなううえで実力を遺憾なく発揮してくれている。

実績

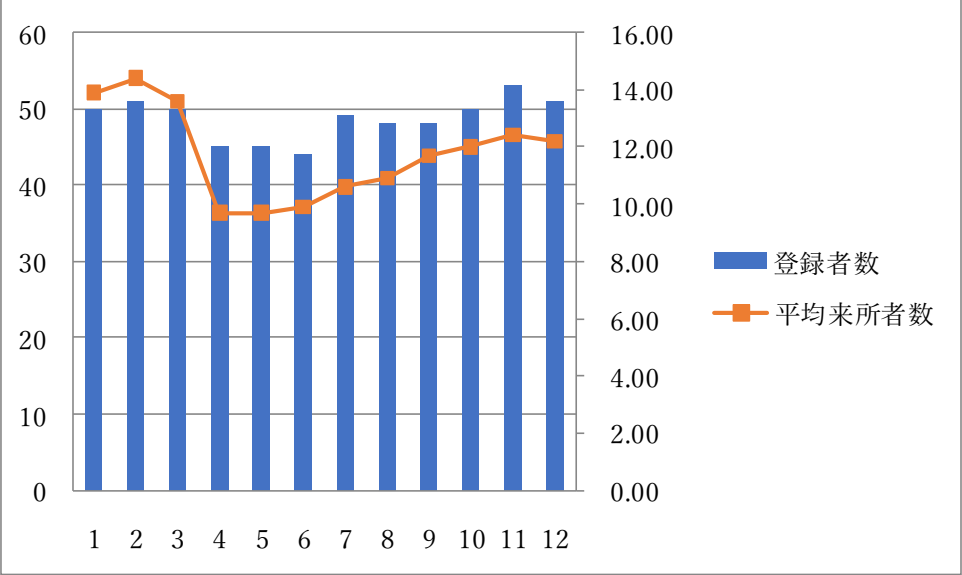
活動実績としては、年間利用者数（グラフ 1）は昨年に続いて低め安定であるが、下半期は少しずつではあるが若年層の就労希望者は増加しつつあり、次年度以降に期待が持てる。年間入退所者数（グラフ 2）については入所 22 名、退所 25 名と昨年度に比べ、退所者数は増加している。依然、運営は厳しい状況に変わりのない。デイケア入所前の体験はおこなうも実際は入所に至らないケースについては、しっかりと評価をおこなったうえで分析、対策を講じていきたい。利用者層の拡大についても昨年同様、提供する治療、支援の幅を広げるうえで、スタッフのスキルアップはもとより、丁寧な動機づけを意識して入所者数増加へつなげていきたい。一日平均利用者数は昨年度に比べ、微増している。短期集中型のリハビリテーションの定着に向け、さらに努力していきたいところである。次に登録者数自体の増加はないが、治療やリハビリテーションを意識した継続的な通所ができるケースが増えつつあるため、効率的な運営が実現できている裏付けとなっている。個別のケースについては、就労目的の利用者は増えており、平均年齢も 40 代半ばと年々若年化している傾向にある。一方で長年通所している高齢者の利用者については、減少してきているが、今後も高齢者サービスへの移行をケースに合わせ丁寧におこなっていきたい。全てのケースについて、これまで同様に適切なタイミングでの地域移行やデイケアにとどまらない支援を念頭に取り組んでいきたい。

入所者紹介元については、当院外来からの紹介は安定しており、ついで入院、他院・クリニックの順になっている。当院入院、外来については医師の増員もあり、今後、期待がもてる状況にはあるため、積極的な受け入れを意識していきたい。特に入院時からのデイケア移行についてはこれまで以上に連携強化を図り、継続的な利用ができるようスムーズな移行を心掛けていきたい。疾患別内訳においては、例年と大きな変化はなく、統合失調症が約半数を占め、次いで発達障害、その他となっている。疾患にかかわらず就労を目指すケースを中心に心理社会的リハビリテーションを軸とした運営方針は変えず、アセスメント力の強化、他機関との連携強化、積極的な地域移行、就労支援をおこなっていきたい。

おわりに

次年度に向けて、医療を取り巻く環境を見据えつつ、いま精神科デイケアに求められる役割について推考していくために専門職としての知識やスキルの向上を図り、当院の強みを活かした運営を心掛けていきたい。

(グラフ 1)



(グラフ 2)

